

広島市長 松井一實 殿

2011年11月16日

日本共産党広島県委員会 委員長 村上昭二

日本共産党広島市会議員団 団長 中原洋美

放影研に「黒い雨」調査資料の提供を求めることについての申し入れ書

11月8日、長崎県保険医協会は、日米共同の研究機関「放射能影響研究所」（放影研）が、広島・長崎で放射性物質を含んだ「黒い雨」の人体影響に関する1万3000件のデータを保管していることがわかったと発表し、同協会の指摘を受けて放影研もその事実を認めたことが10日マスコミで報道されました。

同協会の発表によるとこのデータをもとにした報告書では「黒い雨を浴びたことで発熱、下痢、脱毛などの被爆後の急性症状が高率で認められた」としており、もしこれが事実ならこれまで国がとってきた「黒い雨による人体影響はない」とする立場を覆す貴重なデータといえます。

長年にわたり黒い雨の実態解明が問題とされてきたにもかかわらず、放影研がこのような貴重なデータの存在をあきらかにしてこなかったことは極めて遺憾なことです。

黒い雨被災者救済については、現在、広島県、広島市の調査結果をもとに、国において検討が行なわれていますが、被災者の立場に立った検討が行われるためにも以下の対応をされるよう、強く申し入れます。

記

1. 放影研に対して上記データを早急に広島市に提供するよう求めること。
2. 国に対して現在設置されている黒い雨の「検討会」に上記データを提出するよう求めること。
3. 地元自治体として、上記データを入手した上で独自に解析し、市民にも公表すること。

以上